

気象・土砂・雪氷災害による 被害の軽減



気象災害の予測を目指して

2004年には台風が10個上陸するなど、多くの家屋・田畑の浸水や土砂崩れなどの被害が発生し、200人を超える死者が出たことが思い出されます。豪雨豪雪、強風、土砂崩れ、洪水、高潮などによる災害を未然に防止すること、あるいは被害を最小限にすることを目的として、これらの災害をもたらす自然現象の解明や災害の発生を予測する技術の開発を、観測、実験、数値シミュレーションの方法により進めています。



防災科研では、気象災害による被害を軽減するため、最先端の気象レーダ（MPレーダ）の利用に関する研究、台風災害の長期予測に関する研究、雪氷災害発生予測システムの実用化に関する研究に取り組んでいます。



独立行政法人 防災科学技術研究所
〒305-0006 茨城県つくば市天王台3-1 Tel 029-851-1611

